

今月の

用語

隣に伝えたい

新たな言葉と概念

【SSI サーベイランス】

英 Surgical Site Infection Surveillance

和 手術部位感染サーベイランス

手術という医療行為そのものの自体が皮膚を含めた生体組織への障害を伴う行為であり、術中・術後感染の直接原因ともなることは知られているが、現代でもこの感染を100%予防する方法は無い。SSI（エスエスアイ）とは Surgical Site Infection（手術部位感染）の略語で、一般に術後30日以内に手術部位に起こる感染症と定義されている。ただし、メッシュや人工血管、人工関節などの人工物を手術部位に留置した場合には、術後30日以内という規定は術後1年以内へと延長される。

SSI は手術後患者における最も頻度の高い院内感染症であり、その治療にあたっては医療コストの増大、在院日数の長期化、患者 QOL の低下を必然的に伴うことから、その対策は非常に重要である。SSI の発生を効率良くコントロールするためには、SSI の手術手技、患者リスク因子ごとの発生率や原因菌に関するデータを継続的に収集、解析することが肝要であり、このことを SSI サーベイランスという。

サーベイランスはデータの収集が主目的なのではなく、そのデータを臨床現場にフィードバックし、それをもとに効率的な感染対策を行うことによって SSI 発生率の減少をはかるのを目的としている。それ以外にも、講じた感染対策前後の SSI 発生率を比較することによって、その対策が実際に有効であったかどうかを評価できる点や、また、他施設での発生率との比較をすることにより自施設のレベルを評価できる点でも意義がある。

〈関連学会〉厚生労働省、厚生労働省院内感染対策サーベイランス（JANIS）、日本環境感染学会、日本医療関連感染サーベイランス（JHAIS）、SSI サーベイランス研究会

（国立病院機構東京医療センター 石 志紘）本誌694p に記載